

ひと呼吸

#3 Gomi Yoichi

私たちの日常。それは多くの営みの連なりである。普段、それぞれの行為の意味を考えることは少ないが、ふと立ち止まって考えてみれば、そこには偶然と必然が潜んでいることに気づく。

呼吸。そのような自然な行為ですら、太古における偶然と必然の産物であったといえるかもしれない。

この『ひと呼吸』が、手に取った人の日々の呼吸（営み）を見つめ直すきっかけとなり、そして、それぞれの日常のなかでの「ひと呼吸（休息と起點）」になれば嬉しい。

#3 Gomi Yoichi



Interviewer / Text Miyatani Masashi

僕の中では全部繋がっている

宮谷 今日はフレッシュな気持ちで聞きたくて、何の下調べもせずに伺いしてしまいました。よろしくお願ひします。

五味 こちらこそ、よろしくお願ひします。

宮谷 まず、この話から聞くというのを決めています。五味さんの自己紹介というか、アイデンティティはどこにあるのか教えていただけますか？

五味 アイデンティティや専門を問われると結構恵ましいですね……。学生の頃は応用行動分析学¹をベースに行動上の問題のある子ども們の研究をやっていた、週に何日も小学校に入り浸っていました。修了のタイミングでまたまた「のぞみの園」²の研究部の仕事をの話をあって、面白そうだなと思ってそこで3年間。のぞみの園ではいろんな調査をしましたね。僕が関わったテーマとしては、まず強度行動障害³、それから知的障害者の認知症や高齢化の問題、あとは触法の障害者への支援とか、その辺りがメインかな。それから、ちょうど障害者虐待防止法が施行された頃だったので、その法施行後の実態把握も柱の一つでしたね。のぞみの園の任期が終わる次の年度から、ちょうど筑波大学で文部科学省の事業として発達障害学生支援に関するプロジェクト⁴が始まるこことなって、そこに採用していただいたので、そのタイミングで筑波大学に戻りました。障害学生支援に関わり始めたのはそこからです。もちろん学生の支援もしていましたが、支援モデルを作るプロ

たね。僕が関わったテーマとしては、まず強度行動障害³、それから知的障害者の認知症や高齢化の問題、あとは触法の障害者への支

援とか、その辺りがメインかな。それから、ちょうど障害者虐待防止法が施行された頃だったので、その法施行後の実態把握も柱の一つでしたね。のぞみの園の任期が終わる次の年度から、ちょうど筑波大学で文部科学省の事業として発達障害学生支援に関するプロジェクト⁴が始まるこことなって、そこに採用していただいたので、そのタイミングで筑波大学に戻りました。障害学生支援に関わり始めたのはそこからです。もちろん学生の支

援もしていましたが、支援モデルを作るプロ

たね。僕が関わったテーマとしては、まず強度行動障害³、それから知的障害者の認知症や高齢化の問題、あとは触法の障害者への支

援とか、その辺りがメインかな。それから、ちょうど障害者虐待防止法が施行された頃

だったので、その法施行後の実態把握も柱の一つでしたね。のぞみの園の任期が終わる次の年度から、ちょうど筑波大学で文部科学省の事業として発達障害学生支援に関するプロジェクト⁴が始まるこことなって、そこに採用していただいたので、そのタイミングで筑波大学に戻りました。障害学生支援に関わり始めたのはそこからです。もちろん学生の支

援もしていましたが、支援モデルを作るプロ

ジエクトの担当でしたので、支援を通して見えた課題についての研究をしたり、海外の大学の視察に行ったり、そういうことをしていました。

いろいろな領域を彷徨つてきたので、自己紹介もその時々で変わっていますね。のぞみの園にいるときも、筑波大学に行って障害学生支援の仕事を始めたときも、はて自分の専門はなんだろうと思つていたんです。でも最近は、これまでの研究や実践で経験してきたことは、「これまでの研究や実践で経験してきたことが『障害学生支援』というキーワードで自分が専門です」と言えるようになつてきたかな。僕の中では全部繋がつているんですけど、他人にはわかりづらいですよね。

宮谷 障害学生支援の仕事を選ばれたのには何か理由があるんですか。

五味 それもよく聞かれますが、積極的に「選んだ」というわけではなく、流されて辿り着いた感じですね。

五味 その時々の縁を辿つていったら、たまたま今、ここにいるという感覚でしょうか。ただ、障害学生支援つていろいろな知識が必要な領域なので、いろいろなことをやつけてきた自分に合つている領域かもな、と思っています。これまで、乳幼児から高齢者まで、あとあらゆる世代を通して、そして知的障害の軽度から重度の方まで関わってきたので、その経験は今の実践にもプラスに働いていると思いますね。一つの領域でストレートに研究を続けるのもいいですが、そうした経歴を辿つけていたら、今の仕事はもとより苦労していましたと思います。いろいろなフィールドを転々としてきたせいか、専門家として絶対これは人は負けない、譲れないといった強いものつてないんです。裏を返せば、いろんな領域の人と一緒にやっていくことに対するあまり抵抗がなくて、意見を聞いて筋が通つていると見えます。それまでの自分の考え方と違つていても抵抗なく受け入れます。性格的には頑固なので、納得がないないと受け入れられないこともあります。障害学生支援は本当に複合的な領域なので、自分の領域の常識が通じないことって山ほどあると思います。ただ、複合領域ならではのいろんなバックグラウンドのある人たちと関わることを楽しめれば人生の目標なんて支援者が決められることが多い人生の目標なんて支援者が決められることが人生の目標なんて支援者が決められることがあります。そのとき、僕にとって、障害学生支援という枠組みの中で働くのがいいのか、あるいは、もう少し広い意味で青年期の障害者支援をテーマにした研究や活動をやるのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援という枠組みの中で機能を大きくしていくよりも、地域社会に支援機能がしっかりとあることが大事ではと思うようになっているので、そうしたことに関わるものありますね。

宮谷 五味さんのように広い視野で俯瞰できるのは、今まで様々な年齢・領域に関わってきたからこそなんでしょうね。大学の人間として、教育者として、教育者として関わっているのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援といふところもあるからこそ、戸惑いのようなものはあるんでしょうか。

五味 福祉と教育とでどっちが良い悪いではないんですけど、それぞれの世界を経験するところ、やはり文化の違いは感じますね。今の僕のスタンスとしては、教育的な視点を持ちながら、福祉のマインドで仕事をしている感じです。福祉の基本は、その人の人生にどう伴走して支えていくのか。そこで大事にされるのは本人がどうしたいかであって、仮に周囲から見て「こうしたほうが良い」というものがあつたとしても、支援者がそれを強いたり、誘導したり、代わりに決めたりすることはありません。行動障害のある重度の知的障害のある方の支援でも考え方と同じです。もちろん、

五味 それは何とも言えないですね。これからどんな縁があるかもわからぬです。でも、この領域は今やっと考え方や支援の枠組みが見えてきている段階で、これから5年、10年かけて形になっていく中で次の課題や次のステージが見えてくるのではないかと思つています。そのとき、僕にとって、障害学生支援という枠組みの中で働くのがいいのか、あるいは、もう少し広い意味で青年期の障害者支援をテーマにした研究や活動をやるのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援といふところもあるからこそ、戸惑いのようなものはあるんでしょうか。

五味 福祉と教育とでどっちが良い悪いではないんですけど、それぞれの世界を経験するところ、やはり文化の違いは感じますね。今の僕のスタンスとしては、教育的な視点を持ちながら、福祉のマインドで仕事をしている感じです。福祉の基本は、その人の人生にどう伴

走して支えていくのか。そこで大事にされるのは本人がどうしたいかであって、仮に周囲から見て「こうしたほうが良い」というものがあつたとしても、支援者がそれを強いたり、誘導したり、代わりに決めたりすることはありません。行動障害のある重度の知的障害のある方の支援でも考え方と同じです。もちろん、

五味 それは何とも言えないですね。これからどんな縁があるかもわからぬです。でも、この領域は今やっと考え方や支援の枠組みが見えてきている段階で、これから5年、10年かけて形になっていく中で次の課題や次のステージが見えてくるのではないかと思つています。そのとき、僕にとって、障害学生支援という枠組みの中で働くのがいいのか、あるいは、もう少し広い意味で青年期の障害者支援をテーマにした研究や活動をやるのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援といふところもあるからこそ、戸惑いのようなものはあるんでしょうか。

五味 福祉と教育とでどっちが良い悪いではないんですけど、それぞれの世界を経験するところ、やはり文化の違いは感じますね。今の僕のスタンスとしては、教育的な視点を持ちながら、福祉のマインドで仕事をしている感じです。福祉の基本は、その人の人生にどう伴

走して支えていくのか。そこで大事にされるのは本人がどうしたいかであって、仮に周囲から見て「こうしたほうが良い」というものがあつたとしても、支援者がそれを強いたり、誘導したり、代わりに決めたりすることはありません。行動障害のある重度の知的障害のある方の支援でも考え方と同じです。もちろん、

五味 それは何とも言えないですね。これからどんな縁があるかもわからぬです。でも、この領域は今やっと考え方や支援の枠組みが見えてきている段階で、これから5年、10年かけて形になっていく中で次の課題や次のステージが見えてくるのではないかと思つています。そのとき、僕にとって、障害学生支援という枠組みの中で働くのがいいのか、あるいは、もう少し広い意味で青年期の障害者支援をテーマにした研究や活動をやるのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援といふところもあるからこそ、戸惑いのようなものはあるんでしょうか。

五味 福祉と教育とでどっちが良い悪いではないんですけど、それぞれの世界を経験するところ、やはり文化の違いは感じますね。今の僕のスタンスとしては、教育的な視点を持ちながら、福祉のマインドで仕事をしている感じです。福祉の基本は、その人の人生にどう伴

走して支えていくのか。そこで大事にされるのは本人がどうしたいかであって、仮に周囲から見て「こうしたほうが良い」というものがあつたとしても、支援者がそれを強いたり、誘導したり、代わりに決めたりすることはありません。行動障害のある重度の知的障害のある方の支援でも考え方と同じです。もちろん、

五味 それは何とも言えないですね。これからどんな縁があるかもわからぬです。でも、この領域は今やっと考え方や支援の枠組みが見えてきている段階で、これから5年、10年かけて形になっていく中で次の課題や次のステージが見えてくるのではないかと思つています。そのとき、僕にとって、障害学生支援という枠組みの中で働くのがいいのか、あるいは、もう少し広い意味で青年期の障害者支援をテーマにした研究や活動をやのがいいのか……。最近は、大学の障害学生支援といふところもあるからこそ、戸惑いのようなものはあるんでしょうか。

五味 福祉と教育とでどっちが良い悪いではないんですけど、それぞれの世界を経験するところ、やはり文化の違いは感じますね。今の僕のスタンスとしては、教育的な視点を持ちながら、福祉のマインドで仕事をしている感じです。福祉の基本は、その人の人生にどう伴

走して支えていくのか。そこで大事にされるのは本人がどうしたいかであって、仮に周囲から見て「こうしたほうが良い」というものがあつたとしても、支援者がそれを強いたり、誘導したり、代わりに決めたりすることはありません。行動障害のある重度の知的障害のある方の支援でも考え方と同じです。もちろん、



五味洋一・ごみよういち
群馬大学 大学院人間総合科学研究科
学生支援センター副センター長/
障害学生支援室長

筑波大学大学院人間総合科学研究科
修了。博士(障害科学)。大学院修了後、国立重度知的障害者総合施設のぞみの園にて強度行動障害支援者養成研修の開発等に取り組む。2001年より筑波大学にて障害学生支援に携わり、文部科学省や厚生労働省の事業を受け、発達障害や重度の肢体不自由のある学生に対する支援モデル構築に力を注いだ。2007年12月より現職。障害学生支援室長として、多様な学生への支援ならびに全学的な体制整備に携わる。

Editor's Note

私自身、これまで五味さんの名前や姿をいろんな場所でお見掛けしていましたが、いずれも厚労省の成果報告書やAHEAD全国大会の分科会担当など、まさにこの分野の若手トップランナーとしてご活躍されている姿で、なんだかものすごく違いたい存在のように感じていました。ただ今回、五味さんも私と同じように日々現場で汗をかきながら悩みながら（でも楽しみながら）、学生支援のコーディネートに取り組む姿が見えてきて、とても身近に感じられたことが嬉しかったです。また、「流されてきた」からこそその切り口で障害学生支援の現状と課題、そしてこれからについて語っていただき、その思いの一端に触れ、私は自分のなかのモヤモヤが整理されていくようすごく安心しました。安心という言い方が正しいのかわからないのですが。

今回のインタビューでとても印象的だった「構造的ジレンマ」。私もまた言語化できていなかったモヤモヤ感の正体に気づかされ、記事をまとめながら何度も揺れ動かされました。読者のみなさんがどのように感じられたか、ぜひお話をしたいなと思っています。

（宮谷祐史）

Concept

障害のある学生が高等教育にアクセスする権利を保障するための取り組みである「障害学生支援」には、その主人公である学生と対話し、ともに行動してきた多くの実践者たちの存在があります。こうした実践者一人ひとりには独自のバックグラウンドがあり、またそれぞれの考え方や想いをもって形作ってきた歴史があります。

私たちは、これらの「人」によって蓄積してきた考え方やその想いを知ることが、これからの障害学生支援を考えていく上で貴重な機会となり、この分野の魅力を知ることにつながる考え方、この『ひと呼吸』を発行することにしました。ここに綴られているのは、私たちを含めた一人ひとりの関係者にむけた応援のメッセージです。

ひと呼吸・編集委員会（HEAP×Kyoto Univ.DSO）

村田淳、船越高樹、宮谷祐史、木谷恵

HEAP：高等教育アクセシビリティプラットフォーム

Kyoto Univ.DSO：京都大学 学生総合支援センター 障害学生支援ルーム

発行／高等教育アクセシビリティプラットフォーム（HEAP）

Address 京都市左京区吉田本町

京都大学学生総合支援センター内

Web <https://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/platform/>

Mail d-support-pfm@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp

Tel 075-753-5707